

その明くる日も、ごんは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。

T じゃ、始めます。

きのう、優子さんが休んでいたからね、昨日の話し合いと今日の問題をもういつぺんはつきりしましょう。ちよつと先生読んでみます。

「おれはあれからずつと考えていたが……ごんは、「へえ、こいつはつまらないな。」と思いました。……神様にお礼をいうんじゃあ、おれは引き合わないなあ。」

ここんとこのごんの気持ちをみんなで考えたときに、こんなふうになつたんやね。(板書しながら説明)

いままでは、ごんが兵十のところへもつていく。兵十は、ごんが持つていつているということはしらないけども、ごんは、持つていったら兵十が喜んでくれる。それがうれしくて、また持つていく。そんなことが続いていたんですよ。ところが、加助が、「そりや、神様だよ」「神様にお礼を言うがいいよ。」て言われて、「うん。」と言った。そうすると、この瞬間から、この後、どうなるかというのと、これからは、ごんが持つていつても、持つていつても神様にお礼を言う。もうごんの気持ちなんか受け止めるはずがない。有香が、「なんか、友達から外されてしまったみたい。」て、そういうことを言いましたね。

で、引き合わないなって。紗織がどういう意味でついつてたけど、やつてもやつてもかきがない。兵十は神様にお礼を言う。

で、がっかりしちゃった。でも、その明くる日も、じゃあ、やめちゃつたんかというのと、その明くる日も、ごんは、やっぱり(Cくりを持つて)くりを持って、兵十のところへ行く。

そのごんの気持ちってなんだろう。がっかりしたのに、それでも持つていく、そのごんの思いつていうのを、今日はみんなで考える。

みんな、書き込みに書いてたね。もういつぺん自分のを見て下さい。

それをみんな出してみてね、ここのごんの心をみんなでわかりあつてみたいと思います。

はい、ぼくは、きつとこうだ、と思うの、一応全部出してみしよう。

宏 いくら神様にお礼を言つても、まだ、うなぎのつぐないと、いわしのつぐないのことが忘れられないから、持つていく。

T はい、西津君が言った、うなぎのつぐないとか、いわしのつぐないがまだ(宏 残ってる)残ってるから。似てる、言う人。同じようなこと考えた人。

勝仁 似てる

T 西津君だけ？勝仁もそう？(うん)それから、大裕もそう。

はい、じゃ、また別の意見だという人、出して下さい。

洋志 ぜつたいに兵十と友達になる、というごんの気持ちがあるから。

直也 中野っちゃんに似てる。

T ぜつたいに、友達になるぞ、という思い。似てる、という人。はい、もうちよつと出してくれる。直也くん。

直也 ごんは、兵十が神様が持つてきてくれると思つてな、なんか、友達になつたみたいでな、神様と兵十が。けどな、持つていつたら、またな、見られてな、ほこの見られてな、なんか、ごんが持つてきとるんやなつて、思つていうか、ほれで。

宏 先生、ぼくもほれに変える。

C 近い

T 今、直也が言うてるのは、神様と友達になっちゃったね。だけど、持って行ったら

直也 なんか、見られる、いうか、見てもらってな、ごんが持ってきてるんやな、て思ってたらしい。

T ああ、ごんが持ってきてるんだとわかってほしい。ほう。そうするとこれは、ちよつとちがうね。

(板書 「ごんが持ってきているんだとわかってほしい。」)

宣彦 もう一回行って、くりとか置くとところを見られたら、ごんが持ってきてくれたんだと思つてまた友達になれる。

T もういっぺん持っていいたら、「ああ、やつぱりごんかな。」と思つてくれるかもしれん。

衣利子 何回も何回も今までやってきたけど、ずっとやっていいたら、ごんがもってきているということがわかるかもしれない。

T ほう、ずっとやっていたらね。

なつ希 私もえりちゃんと同じで、ごんは、少しぐらい、兵十はごんがしたと思つてくれるように、これからずつとくりやまつたけを持って行くと思つている。

朝子 ごんは、自分のことを兵十は気持ち悪いとかいわなかったから、自分のことだとわかつてもらえるまでやり続けようと思つたし、「兵十のうちへ出かけました。」だから、もう決心したんだと思う。

T だから、やめようなんて、全然思つてないということやね。その上で、おれだと分かつてもらおうと思つて行つた。

そういう意見ですね。

そうすると、「おれだとわかつてもらいたくっていくんだ。」という意見が一つありますね。

それから、西津君は変わった、というけれど、うなぎのつぐないがのこつたるから行くんだ、いう人がありますね。まだ、ちがう、ていうのであるでしょ。これでも(つぐない) これでも(わかつてほしい) ないという人。

祐子 ごんは、ただ、くりやまつたけを持っていって、兵十の喜んだ顔が見れるだけでいい。

T 今、言うてやることわかる? 何やて。もういっぺん言つて。兵十の(祐子 喜んだ顔が見れるだけでいい) 喜ぶ顔が見られるだけでよい。

ということは、……おまんは、おれが持ってきているんだ、ていうことは、そんなに思つてない? (祐子 うなづく) ほう、そんな人もある。祐子さんみたいに思つた人、ある?

公美 兵十の喜ぶ顔がみたいし、ごんは、兵十とずっと友達でいたかつた

T ほう、……友達でいたい。(板書) まだある? さあ、みんな、この中のどこかに入っていますか?

智昭 書いてないけど。友達にはなれないけど、心の中で友達になる。

T ……すごいこと言いますね。何やて? 友達にはなれないけども

(C 心の中で) 心の中の友達で (智昭 いられる。) いられる。 紗織 友達にはなれないけど、心の中で。

T ちよつと待って。今智昭の言つたことすごいことみたいから、書いてくよ。友達にはなれないけども、(紗織 心の中) 心の中で友達でいたい。で、何? 紗織。(紗織 やっぱもういい) 由美子 兵十が神様と友達でも、ごんは、自分では、兵十と友達だと思つて

兵十の「不思議なことがあるんだ」ということばに「気味が悪い」という気持ちはない、という勉強をしている。

「もう決心したんだ。」という読みは今から思うと重要だつた。ここでも新たなごんの決意があつたのだ。

T 自分では！

祐子 兵十が神様にお礼を言っても、ごんは、いつも兵十の近くにいられて、「うん」という言葉を聞いて、ごんは、喜んでいてくれるんだなあと思つて。

T 近くにいられるだけでいい。(板書)

さあ、みんな黒板見てくれる。今いくつかの意見がありますね。今日の勉強はね、どれが正しくてどれがまちがいつていうんじゃないかね、きつとみんなはごんのどこかの気持ちを言ってるんだと思うのねで、今言うてやることの一つひとつをわかり合つていけば、ここのごんの気持ちが見えてくると思うんだけど、

はい、これ、①としましょうね。「うなぎのつぐない。」

それから、「ぜつたいに友達になる」というのは、どこに入るのかな。

洋志は、どこに近いのかな。「友達でいたい。」そういう気持ち？

(洋志 うなずく) よし、じゃ、洋志のはここへ入れとこうね。  
紗織 ほのほがいい。

(ここで、ビデオの電源をうっかり外してしまつて、しばらく写っていない)

――【ビデオの切れた部分の展開のあらまし】――  
③「兵十の笑顔が見られるだけでいい。友達になることはあきらめているけど心の中の友達で見られる」

こんなふうに①・②・③に整理して、「さあ、みんなは、どんなふうに思う？」と問いかけた。すると、③みたいな気がするという声があちこちで起こつた。

「③のような気がする、いう人手を上げて」というと、クラスのほとんどの子が手を上げた。つぐない、と言つていた子も「わかつてほしい」という子も、そっちの方がいいとすんなり變つてしまつた。私としては、①も②もつぶすつもりはなく、むしろ、それらの奥にある思いを引き出すことによつて、より③の意見も深く受け止められることになると思つていただけに、ちよつとごんねんだつたが、とりあえず、みんなが③だということで、「③をもつとよく考えてみよう」ということで進める。

もう一度、祐子に問い直す。

「どうして、近くにいられるだけでいいと思うの。わかつてもらえなくてもいいの」  
しかし、祐子はつまつてしまう。

そこで、有香にたずねてみた。有香もきのうの書き込みのあと話していて、祐子とよく似た考えを持つていることをつかんでいたからである。

「ごんは、ずっとひとりぼっちやつたし、兵十も、おつかあが死んでからひとりぼっちやで、同じひとりぼっちのともだちどうしていうか……」

と、同じ一人ぼっちだから、と少し新しい考えをだすが、それ以上広がらない。その時、直也が「ちよつとちがうことやけど、わかつてもらいたいという気持ちはない」といいだす。

「こつそり中へ入りました」て書いてあるから、わかつてもらおうとは思つていない。

それを取り上げて、私は、その部分を読んだ。「もし、わかつてもらおうというのなら、こつそりなんかいかないね。」と直也の言おうとしたことを強調した。そして、見つかったら殺されることは、ごんはわかつていたということも確認した。「そうすると、わかつてほしいという気持ちはなかったのかな。」と問うてみた。子どもたちは、反論はしなかった。でも、すんなり納得したような顔でもなかった。それで、

「わかつてもらいたい、という気持ちは、全然なかったのだろうか。」と逆の聞き方をしてみたすると、「少しはあった。」という。

私は、「少しあったのか、いっぱいあったのか」ともうひと押ししたが、「いっぱいあった。」という子はいなかった。私は「本当はわかつてほしい思いはいっぱいあった」という考えも出るだろうと期待したのだが、でない。それで、しかたなく、

「そうすると、わかつてほしいという気持ちは少しあったということは、この時もつていこうと

した気持ちは、もっと他にあるということやね。それは、何だろう」  
と、また、3のところへもどっていった。

政義が、

「兵十のおつかあが死んでから兵十は一人ぼっちやし、しょんぼりしてるのがかわいそうやで」と出してくる。

明代が

「ごんはずっとひとりぼっちでさびしかったし、兵十もひとりぼっちだから、ごんには初めての友達だったから、兵十のしおれてる顔を見たくない。」

ほかの子どもたちは、ぼんやり感じているのだろうが、言葉にならず、しばらく沈黙になる。しかし、それ以上どうしようという手も見えず、私は、

「みんなは、3というけれど、そこ、もうちょっと自分で言葉にしてみても」と、しばらく、書き込みの時間をとった。その後、またビデオに入っている。

T じゃ書いてる途中の人もやめて、顔を起こしてくれる。書き足らんところは、足してくれたらいいからね。この③のあたりのみんなの気持ちをもうちょっとみんなまで深めてみたいと思います。

公美 兵十がとつたうなぎをごんがとつてしまつて、それを兵十がまだおこつてて、兵十に「またぬすつとぎつねめ。」って言われるけど、ほんとは、盗むつもりじゃなかったことを信じてわかつてほしい。

T うん。何をわかつてほしかったの。  
公美 盗むつもりじゃなかったことをわかつてほしい。

邦臣 ごんにとつては、最初の友達だから、その友達がしおれていたら、なんだかごんもかなしくなる。

T うん。はい、洋志  
洋志 見つかるとどうせ殺されるけど、心の中では殺されずに友達でいられる  
T うん。わかっているわけね。ごんは、見つかつたら殺されるつてことは、重々承知している。だけど、その上で、心の中では、友達でやっぱりいたいんだ。

明代 ごんは、今までずっと一人ぼっちだったから、(T みんな顔おこして聞いててくれる)だから、初めてできた一人の友達をやさしくしてあげたかった。

T 今のわかつた？先生ようわからなかった。もういっぺんいつてくれる？

明代 ごんは、今ままでなんか一人ぼっちだったから、だから、一人できた友達にやさしくしてあげたかった。

T たつた一人、初めてできた友達。これ、邦臣君がいったことやね。だからその友達にやさしくしてやりたかつたんだ。

哲也 兵十の家に入って、殺されてもいいから、ごんが持つていつている気持ちをわかつてほしい。

T おれがやってるんだつてわかつてほしい気持ちはあるんやね。ないことないんやね。うんとわかつてほしい気持ちはいっぱいあるんだけど、それはわかつてもらおうと思つたら殺されちゃう。そういうきびしいところがあるわけね。

優子 ごんは、殺されるのをわかつて入つていつたと思う。ごんは、兵十の青いしおれた顔を見るとつらくなる。赤い顔がみたくて。

T つらかつたのね。

美由紀 ごんは兵十が、「そうかな」とうたがい深く言つてくれたことがうれしかったから兵十の家へ持つていつた。

T また、自分のところへもどつてくれる可能性があるかもしれない、という気持ちね。

治武 もう兵十とは本当の友達にはなれないけども、ごんは、兵十のことを自

哲也の「殺されてもいいからわかつてほしい。」と思うほどに切ない思いをのりこえて、「その明くる日も」持つていくごんの心に触れたかつたのだが。

ずっと意見は続くが並列的に並ぶだけの展開になっている。

分の心の中にしまっておく。

T ほうすごいこというね。智昭か言ってたことに近いんだね。なれない、てあるあきらめがあるの。「ほんとうは俺だとわかってもらいたい」ということは、あきらめてるけども、心の中では、友達でいたい。

和樹 ごんは、ずっと自分がやってることをわかってほしかった。わけは、おつかあを殺したと自分では思っているけど、おわびを何回もやっているから、兵十にいいたい。

T その気持ちはね。  
由美子 ごんは、もっていつて殺されるのはわかっているけど、持ってきてくれるのは、神様だと兵十は思っているんだから、自分が神様と言ってもらってるみたいだから。

T おれは神様でもいいやって。いうことやね。  
まだ、意見いえる人ある？

なつ希 ごんは、くりやまつたけを持っていつて自分と、少しは思っほしいけど、兵十の喜ぶ顔を見ている方がうれしいと思う。

T だから、今みんなが言うてやるのは、「わかってほしい」て気持ちはないことは絶対ないわけでしょ。祐子の言葉見てごらん。「喜ぶ顔が見られるだけでいい」「だけ」ていうことは、本当は、…：わかってほしいんやね。でもできないことだ。喜ぶ顔が見られるだけでいいんだ。近くにいられるだけでいいんだ。元気な顔が見られるだけでいいんだ、一人ぼっちになっておれている兵十が元気になってくれるだけでいいんだ、そういう思いで持っっていく。

直也 あんな、なんかな、「ごんは、ぐったりと目をつぶったままうなずきました」やさかいな、ふつうやったら、ほんなん思ったらな、うなずかへんかったと思う。

T あれ、直也はすごいことまたいいますね。何言ったん？そういう思いがあるからうなずいた。どういうこと、もうちよつといつてくれ。みんなに。みんな、見て。どこ言うてやるの？終わりのとこや。

直也 なんかな、神様と兵十が思いこんでな、ごんはな、おれだということがわかってほしかったからな、うなずいたん。で、なんかな、もし、神様でいいやと思ったらうなずかかんかったと思う。

T わかる？ごんの心の中には「おれがやってるんだ」てことを伝えたい気持ちはいっぱいあったんだ、で、それはできないんだけど、その気持ち、この最後の撃たれてしんじやった時に、「ごん、おまえだったのか、いつもくりをくれたのは。」とその言葉を聞いてごんは、ぐたったりと目をつぶったまま、うなずきました。死んだところで、やっと思いが通じてくれたんだなって、うなずきがここであるわけね。

朝子 最後の「火なわじゆうをバタリと取り落としました。」の後の「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」のところ、ついさっきのことだけど、ずーっと悲しい思いが続いている。

T そうやね。ここのごんを撃ってしまった兵十のかなしみについては、もう一時間、勉強しましょう。

授業前の書き込み	話し合いの後での書き込み
和 幸 たとえ神様のしわざだと思われても、ごんは、 ぜったいにどうしても兵十に友達になっほしい。	・ごんは、兵十と心の中の友達でいたい、もう兵十と 本当の友達にはなれないけど、兵十のことは、心の中 にしまっほきたい。

有香	<p>兵十は、神様だと思いきんでるけれど、ごんは友達になりたいと思ってるから、ぜったいにあきらめない。</p>	<p>・ごんは、兵十にわかってもらえなくてもいいから、喜んでもらえたらいいと思うのは、ごんは、兵十には友達にれないけど、心の中で思っている。友達にれないのはわかってるから、せめて、喜んでる顔だけで満足（心の中で友達になっているから）。わかってほしい気持ちがある</p>
昭智	<p>・せっかくの友達だったのに、神様のしわざだと言ったから、ごんは、兵十と友達とけんかしたようになったから、ちよつとつまらないけど、また、持っていたら、友達になれるかもしれないから。</p>	<p>・もう兵十はくりとかまっただけをくれるのは、神様だと思いきんでるから、ごんは、兵十のことをあきらめているけど、でも、心の中では、ズーとズーと友達でいれるから満足している。</p>
子祐	<p>だけど、ごんは、そのうちわかってくれるだろうとあまり気にしなかった。だ、くりやまっただけを持って行って兵十のえがおが見られるだけで、ごんは、まんぞくだった。</p>	<p>・兵十が神様におれいをもって、ごんは、いつも兵十の近くにいられる。「うん」ということばをきいて、ごんは、よるんでいてくれるんだなうと思ってるから。</p> <p>知ってもらいたいと少しは思ってるだろうけど、もし兵十にごんがもっていていると分かってもあまり信じてくれないかもしれないから。</p>
悟司	<p>・あげないぞとごんは、思ったけど、兵十は、ごんと同じ一人ぼっちだから、やっぱりかわいそうだから、あげる。</p>	<p>・ごんは、兵十にわかってほしいとゆうきもちがあるけど、みつかったらつかまえられてきつねじるにされるから、自分の心の中に兵十のかおのえをしまっておいて、いつでもさみしくなったらあいにく。</p>
美由紀	<p>そのあくる日ももっていくんじや、すごい友だちの気もちなんだろう。むこうが、神様におれいというなら、こっちは、むきになってもって行ってやる。</p>	<p>きつと、ごんは、「そうかなあ。」と兵十がうたがいぶかきうってくれた時、うれしかったと思う。だから兵十にもっていった。</p> <p>ごんは、いままで一人ぼっち、たった一人できたともだちにやさしくしてあげたい。</p>
洋志	<p>ぜったい兵十ともだちになるとゆうごんのもちがあるから。</p>	<p>・わかるとどうせ殺されるけど、心の中ではころされず、友だちでいられるから。</p>
直也	<p>ごんは、兵十とかみさまがともだちみたいにしていて、まちともだちにちかづけるかもしれないから、</p>	<p>・目をつぶったままうなずきました。のところで、ほんとうは、友だちでいたかったけど、兵十は神様のおもいこんでいるから、心の中で友だちでいる。</p>
哲也	<p>何か、あげているうちにわかってくると思う。</p>	<p>兵十のうちはいってころされてもいいからごんがもっていていることをわかってほしいと思う。</p>
なつ希	<p>これからは、少しやり方を考えようと思ってるから、ずっともっていきこうと思った。</p>	<p>ごんは、くりやまっただけを持って行って、自分とおもってほしいのは、少しはある。兵十のよろこぶ顔を見れば、ごんだってうれいと思う。だから、べつにごんと思わなくてもいい（ごんにとってははじめての友だちだから</p>
由美	<p>兵十は、加助にあした見にいよといっただから、ごんが持っていけないと兵十は加助けにう</p>	<p>・ごんは、自分ももっていているというのが兵十にわかったら、とっでもうれいけど、今は兵十が神様</p>

子	義 政	法 龍
<p>たがわれて、とてもかわいそうだから、持っていった。</p>	<p>ごんは、がっかりしたけど、ごんは、兵十と友だちがら、またその明くる日ももっていった。</p>	<p>ごんは、やっぱり兵十と友だちになりたいし、うなぎのぶんもある。</p>
<p>だと思っているんだから、ごんは、持って行って殺されるのはわかってるけど、持って来てくれるのは、神様だと思っているから、自分のことを神様っていつでもらってるようだからいい。</p>	<p>・ごんは、友達になれないから、心の中では、少しだけしつてもらいたいと思ってる。それは、ごんは、最初の友だちだから。ごんは、見つかったもよいから一回でもおれいをいつてもらいたい。</p>	<p>・ほんとは、おれがもっていつているとわかってほしいけど、いまは心の中でもだちになつてたい。</p>